

北海道釧路湖陵高等学校（定時制） 令和7年度学校評価

評価に基づく反省

	対象	今年度の目標	評価項目目標達成のための評価の観点					成果と課題				
			平均	4	3	2	1					
教務部		<ul style="list-style-type: none"> ○主体的・協働的・体験的な学習指導を実践し、探究的な学習の充実を図る。 ○生徒の学習意欲向上につながる学習評価になるよう改善・充実を図る。 ○生徒の興味・関心および学習理解を高めるICT機器等を活用した授業を実践する。 	1	主体的・協働的・体験的な学習活動が実践され、探究的な学習の充実が推進された。支援が必要な生徒への効果的な指導ができた。特性や学習進度等に応じ、指導方法・教材等の柔軟な提供・設定ができた。生徒の興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供できた。探究的な学習や体験活動等を通じ、生徒同士や多様な他者との協働的な学びを提供できた。	3.5	5	5	0	0	各学年の総探は、前年度の改善を活かしながら主体的・協働的・体験的な学習が実践されている。学校長の校内研修により、探究的な学習の充実に向けて体験を通して理解を深めることができ、各教科へ働きかけることができた。修学の意欲はあるが特性や学習進度により学習の定着に遅れがある生徒に対して、指導方法や教材等の対応により観点別評価Cへの手立てが行われている。授業評価アンケートからは概ね生徒が興味・関心を持っていると判断することができた。		
			2	生徒の学習状況の把握と授業評価を活用した授業改善が実施できた。	3.3	3	7	0	0	Googleフォームの活用により、集計結果をすぐに把握して学習状況を把握できるようにしている。授業評価を以降の授業改善に活用いただくようにしている。		
			3	ICT機器やGoogle Classroomが授業で活用され、多様な学習ニーズに対応した学習指導が推進された。	3.9	9	1	0	0	各教科の授業および探究学習の活動において、ICT機器やGoogle Classroomが積極的に活用されている。今後も効果的な利用の仕方について、実践例のある先生方の協力を得ながら情報を共有していく。		
教育目標	生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ○社会的資質や行動力を高めるための指導の充実を図る。 ○いじめの未然防止と望ましい人間関係の形成を図る。 ○教育相談など、教職員の生徒理解の深化に努める。 ○主体的な生徒会活動を推進し、自主的・実践的な態度を育成する。 ○心身ともに健康に生き抜く力の育成を図る。 ○ネットトラブル防止に向け、情報端末の使用に関する指導の充実を図る。 ○防災や危機管理に関する意識の向上を図る。 ○防犯の知識や危険から身を守る力の育成を図る。 	4	生徒は安定した学校生活を送れたか。遅刻・欠席は減少したか。	2.8	1	6	3	0	SNS関係で保護者召喚の生徒指導部長注意があったが、概ね安定した生活を送れたと思う。欠席・遅刻者の固定化と常態化が問題。		
			5	事後指導後の生徒に改善状況は見られたか。	3.2	2	8	0	0	改善傾向にはあると考える。		
			6	サポート会議を通じて情報共有ができたか。スクールカウンセラーパートナーティーチャーと提携できたか。	3.8	8	2	0	0	情報共有やSC・PTとの連携も概ねできたと考える。		
			7	生徒会執行部による自主的な取り組みが見られたか。学校行事を通じた協働する力の向上が見られたか。	3.8	8	2	0	0	生徒会執行部の生徒及び担当者を中心に多くの生徒が動く様子が見られた。「サポーター」による裾野の広がりも定着しつつあると考える。		
			8	生徒たちが規則正しい生活を送れるようになったか。	3	2	6	2	0	欠席・遅刻者の固定化と常態化が顕在化しているが、多くの生徒は規則正しい生活を送るよう努めている姿が見受けられる。		
			9	ネットトラブルの件数は減少傾向にあるか。	2.6	1	5	3	1	今年度は明らかになったものが1件あったが、それはあくまでも氷山の一角であると考え。ゲームチャットなどで他校生・社会人との関係は未知数であり、来年度以降も警戒する必要がある。		
			10	防災に対する生徒の意識の向上は図れたか。	2.9	2	5	3	0	避難訓練や防災学習は実施したが、生徒の意識向上には至っていない。		
			11	危機管理に関する生徒の意識の向上は図れたか。	2.9	2	5	3	0	集会などで話しはしたものの、生徒の意識向上には至っていない。		
			進路指導部		<ul style="list-style-type: none"> ○多角的に自己理解し、自己肯定感を育みつつ、他と共に成長をしようとする姿勢を育む。 ○体験とふりかえりを重ね、自己理解を深めつつ、主体的に「自分事」として進路を切り拓く力を養う。 ○地域内外の教育機関及び企業等の協力を仰ぎ、キャリア教育の充実を図る。 ○社会的・職業的自立に向け、望ましい勤労観・職業観を身につける体験を促す。 	12	「キャリアパスポート」および「進路のしおり」、その他資料を活用した振り返りをさせることができたか。ピアサポートを意識したグループ学習を通じて、他者と協働して課題解決する力を養うことができたか。「進路マップ」の有機的な活用ができたか。各種調査、アンケートを実施し、次年度の改善に活かせる現状分析ができたか。	2.8	0	8	2	0
13	キャリア教育計画に沿った指導が実施できたか。学年及び関係各所と連携し、事前・事後指導の充実を図ることができたか。卒業予定者への進路指導を適切に実施できたか。三修制対象生徒の指導を学年と連携して適切に実施できたか。	3.1				3	6	0	1	計画にほぼ沿ったかたちでキャリア教育を進めることが出来た。進路では、渉外と事前指導を主に行い、その後担任へ引き継ぐ形をとっているが、必要に応じて事後指導も関わる必要がある。卒業予定者への進路指導については、サポステやハローワークなど外部の力も借りつつ、卒業後も連絡を取りながら行っていきたい。三修制対象生徒の指導については、学年と連携して行うことが出来た。		
14	学校内外の教育資源を活用して、目標達成のための効果的な指導が実施できたか。	3.9				9	1	0	0	今年もCPSV、釧路若者サポートステーション、企業・官公庁など、外部の力を借りることが出来た。サポステ学内相談室が復活したことを特筆しておきたい。来年度も、新たなご縁を紡ぎ、生徒により良い体験となるように仕組んでいきたい。		
15	適切な時期に適切な情報を与えることができたか。参加状況/結果はどうであったか。	3				2	7	0	1	進路マップを作ったことで、年間の見通しを持ってもらえるだろうとの希望的な観測に頼ってしまい、こちらからの情報発信が後手になってしまった感がある。外部行事についての参加状況は、差が出てしまった。すべてに言うことが出来るのであるが、進路指導部からの発信が有機的になされていないことが最大の反省点。		